

自由研究発表

## ジャカルタの歴史系博物館における展示の変化に関する一考察

A Study of the Changes of Exhibitions of Historical Museums in Jakarta, Indonesia

金子 正徳 (摂南大学)

KANEKO Masanori (Setsunan University)

本発表は、2023年8月に参与観察したジャカルタの歴史系博物館における展示内容の変化についての考察である。インドネシアでは植民地期から、現代の多様な博物館の前身となる施設が各地につくられてきた。ここで仮に歴史系博物館と総称しているものは、インドネシア国史博物館 (Museum Sejarah Nasional、※独立記念塔地下階の展示)、独立宣言起草博物館 (Museum Perumusan Naskah Proklamasi) そして青年の誓い博物館 (Museum Sumpah Pemuda) あるいは一九四五年闘争博物館 (Museum Joang '45) など、新秩序体制期に開設され、展示手法において共通する特徴を持つ博物館である。

本発表では、特に独立後のインドネシアにおける博物館史的な概要を述べたのち、発表者が新型コロナウイルス問題以前に訪れた際の展示内容 (2014年10月) と、新型コロナウイルス問題以後に訪れた際の展示内容の比較 (2023年8月) を行う予定である。2015年ごろからジャカルタ首都特別州において博物館・モニュメント・ギャラリーをめぐる改革が進められてきた結果、展示手法や展示内容に主要な変化が見られる。

博物館は、その特性において遅行的な媒体と捉えると発表者は考えているが、新秩序体制期から民主主義体制期への、「歴史」とくに現代史をめぐる意識の変化もまた投影された変化であると考えている。そういった意識の変化は、コタ地区やタムリン通りの路傍に設置された歴史パネルや、改築されたサリナ・デパートの沿革展示などにも見ることができる。合わせて、参与観察を通じてインドネシアの博物館について見えてきたいくつかの課題についても触れたい。

発表者はこれまで、他の研究課題における調査に関連して、ジャカルタ、ランブン州、ジョグジャカルタ特別州、西スマトラ州などの博物館をしばしば訪れた。ランブン州立博物館や国立政策移民博物館などについては、文化の世代間継承科研の成果物などのかたちで成果公表をしてきた。またジャカルタの歴史系博物館については、国立民族学博物館の共同研究において口頭発表した他、共著の一章として成果公開を予定しており、本発表ではその内容をもとにそのもう一歩先を眺望したい。なお本発表は、科研費基盤研究 C「民主化後のインドネシアの博物館における社会・文化的創造性の文化人類学的研究」の成果の一部である。